

【実践報告】

教育実習Ⅰ（小学校）の報告

広島文教大学教育学部

教育学科 教授 佐伯 育郎

講師 大野内 愛

1 はじめに

本科目は、本実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に臨むにあたり、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とする。前年度に終えた観察実習（教育実習Ⅶ）の体験、各教科教育法の学びをふりかえり、教材研究や学習指導案作成の仕方などをより深く学習する中で、事前に取り組むべきことを明確にする。小グループに分かれてからは、教材研究・教材開発、模擬授業に取り組む。空きコマなどを活用して、模擬授業に関する担当教員との打ち合わせを行い、指導を受ける。本実習終了後は、グループのリーダーによる実行委員会を中心に教育実習報告会を企画・運営・実施し、学修のまとめとする。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前ガイダンス、全体会Ⅰ・Ⅱ	1月～4月	<ul style="list-style-type: none">・2年次後期の1月下旬（もしくは2月初旬）に事前ガイダンスを行い、教育実習Ⅰの趣旨・スケジュールや春期休業中の課題などを確認し、グループメンバーおよびグループ毎の目標を決定する。・担当教員からのアドバイス（教材研究のポイント、教科書・指導書などの資料の活用法、指導案の提出・添削の方法など）、春期休業中の課題の提出、第1クール担当教員と模擬授業の打ち合わせなどを行う。・担当教員による示範授業と協議会を体験するとともに、今後の取組についての打ち合わせをグループ毎に行う。・ルーブリック（授業評価票）を配付し、評価規準（基準）、評価方法について担当教員から説明する。
グループ別模擬授業	4月～7月	<ul style="list-style-type: none">・グループ毎に模擬授業に取り組む。・教材研究・題材開発に取り組み、学習指導案を作成する。担当教員と模擬授業に関する事前打ち合わせを行う。模擬授業をするにあたり、事前に模擬授業の練習を自主的に行う。・グループのリーダーを中心に実習報告会実行委員会を組織し、4年生（前年度実行委員）との「教育実習報告会」引き継ぎ会を行う。
全体研究授業Ⅰ・Ⅱ、全体会Ⅲ、事後学修	7月～9月	<ul style="list-style-type: none">・代表者による模擬授業（模擬授業45分・研究協議会40分、代表者2人、2会場、1回）を行う。・担当教員による激励、教育実習Ⅰのふりかえり、課題（学習指導案のデータ・プリント、自己評価シートなど）の提出をする。・夏期休業中、グループ別で模擬授業に自主的に取り組み、後期の教育実習Ⅱ・Ⅲに備える。

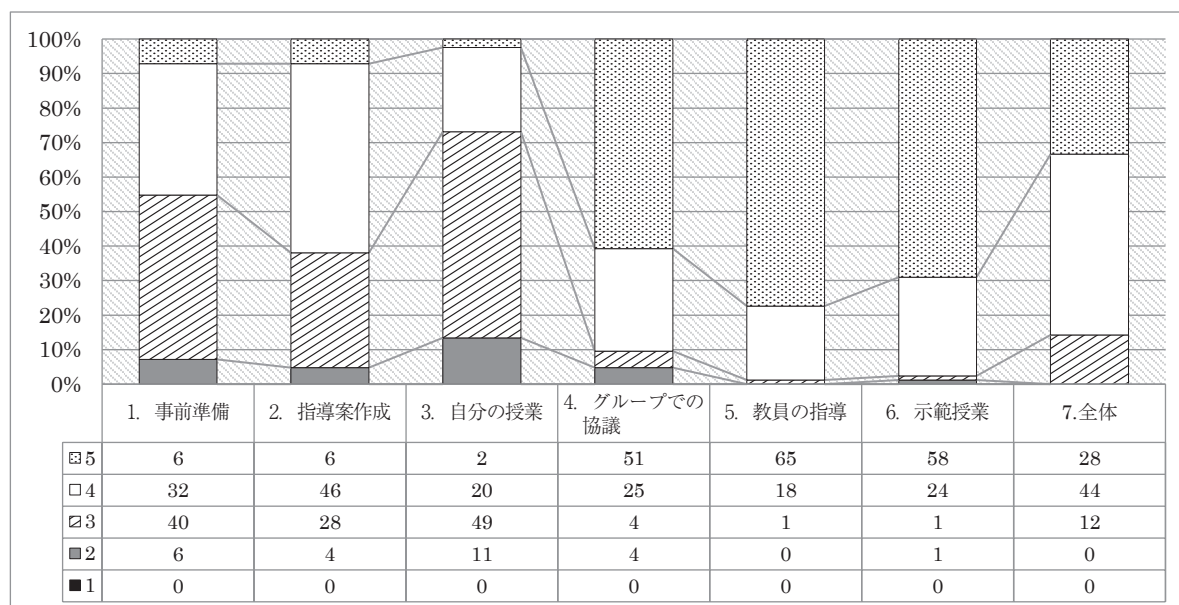
3 活動の概要

(1) グループおよび担当授業科目（受講者総数84人）

グループ（人数）	第1クール（3回）	第2クール（3回）	第3クール（3回）	第4クール（2回）
A（9人）	国語	音楽	理科	体育
B（10人）	音楽	国語	体育	理科
C（11人）	理科	体育	国語	音楽
D（10人）	体育	理科	音楽	国語
E（11人）	社会	図工	算数	道徳
F（11人）	図工	算数	道徳	社会
G（11人）	算数	道徳	社会	図工
H（11人）	道徳	社会	図工	算数

(2) 教育実習Ⅰ：全体振り返りシート（自己評価票）の集計結果（回答者84人、回収率100%）

令和元年8月1日の最終講において自己評価票（A4サイズ1枚の質問紙）による調査を行った。1. 模擬授業の事前準備・教材研究等の取組, 2. 学習指導案の作成, 3. 自分の授業, 4. グループでの協議, 5. 担当教員の指導, 6. 教員による示範授業, 7. 全体を振り返って, の7観点についての満足度を5段階（5が最高, 1が最低）で学生に評価させた。結果はグラフの通りである。満足度は, 5. 教員の指導が最も高く, 3. 自分の授業が最も低い結果となった。昨年, 一昨年と同様, 自分の授業が最も満足度が低い結果となった。3年次後期に控えている教育実習Ⅱ・Ⅲに向けて, 課題が明確になったことも要因として考えられるだろう。教員による示範授業の満足度は, 昨年度に比して5が増えた（約30%増）。教育実習Ⅰ全体に対する満足度は, 前年度に比べて3が増える結果（約13%増, 前年度は3は1人のみ）となった。



【令和元年度・教育実習Ⅰ自己評価票集計結果（A～Hグループ）】

4 成果と課題

今年度はA～D、E～Hグループの人数に極端な偏りがなかったため、従来からの専修による配置(A～D：算数・社会・図工・教育学・教育心理・書写書道、E～H：国語・理科・音楽・体育)を変更することなく、グループのメンバーが決定した。しかし、受講者数が多かったため(昨年度の61人より13人増の84人)、これまで2週であった第3クールも3週実施し、その代わりに代表者による全体研究授業を2週から1週に減らすよう日程を変更した。代表者による全体研究授業の回数よりも、受講生1人ひとりの模擬授業の回数を確保することを優先した結果である。

第2講における教員による示範授業も、教員の負担を軽減するとともに、協議会での議論とグループでの打ち合わせを充実させるために、2教科から1教科に減らした。快く引き受けてくださった先生に感謝したい。

今年度も、担当教員による学生の評価、学生による自己評価、学生間の相互評価にルーブリックを活用した。担当教員による協議の上、学生の取組状況を考慮して評定を最終的に決定した。今年度も修正は少なく、最終的な評定が決定したが、担当教員からは全体的に評価が甘いのではないかというご意見をいただいた。今後の参考にしたい。

今年度の全体研究授業の教科は理科・道徳であった。理科の代表者はすぐ決定したが、もう1教科の代表者選出が難航した。中間地点振り返りシートの記述を参考にして、何人かの候補者に打診した末、決定した。代表を引き受けてくれた学生には、非常に感謝している。今後は、教員による推薦がなくても立候補者だけで全体研究授業が成立することが望ましいと考える。

課題としては、全体研究授業の際に代表者、及び当該教科の指導教員に対する負担が大きかったことが挙げられる。昨年度と同様、授業者と同じグループのメンバーには模擬授業のリハーサルへの参加、教材研究への協力を事前に呼び掛けたが、十分だったとはいえない状況であった。この反省点を、次年度には何らかの形で反映し、少しでも改善していきたいと考える。

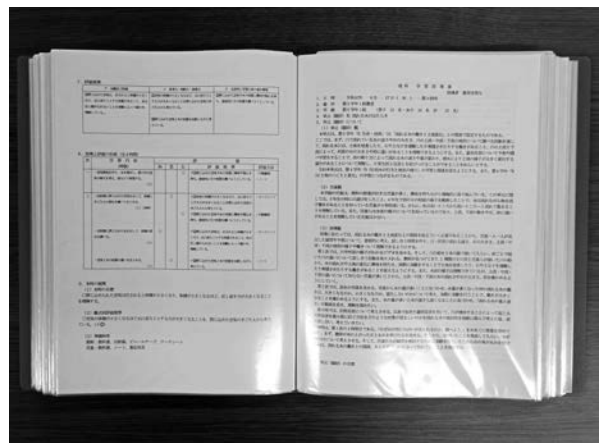


【令和元年度・教育実習Ⅰ 第2講における教員による示範授業(国語)】

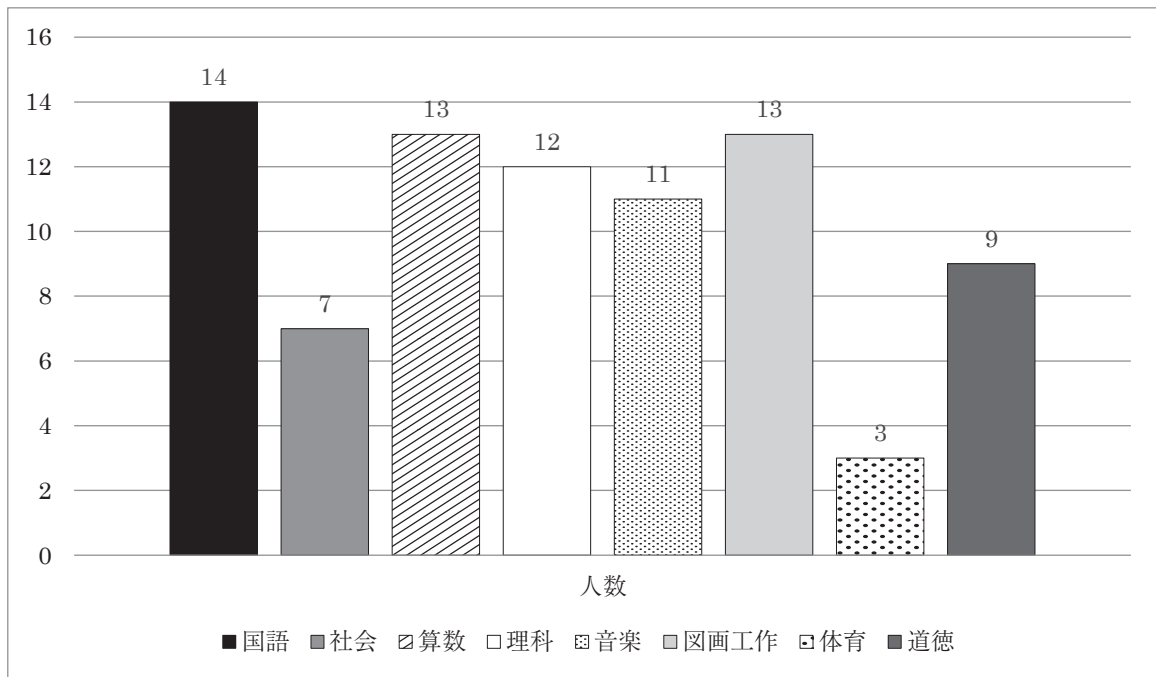


【令和元年度・教育実習Ⅰ全体研究授業（上段：理科・下段：道徳）】

授業後には、最終講において学生1人につき1教科の学習指導案をプリントとデータで提出させ、例年のようにプリントをファイルにまとめた。1号館1階の教職資料室への配架が遅くなったため、配架の時期についても改善したいと考える。学生が選んだ学習指導案の教科については、以下の結果となった。当該学年の学生だけでなく、他学年の学生も閲覧し、有効に活用してほしいと考える。



【令和元年度・教育実習Ⅰ学習指導案集】



【令和元年度・教育実習Ⅰ学習指導案集に選んだ教科（未提出2人）】